

共生力

HP: <http://ajciee.or.jp/>

Tel : 055-269-6533 Fax: 055-269-6534

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16

甲府丸の内マンション 302

発行人：黒田文男

第3回日中教育文化交流シンポジウム開催

第3回日中教育文化交流シンポジウムを、3月3日(土)日本教育会館において、約90名(中国からの留学生約30名、教職員約35名、協会関係者・一般・マスコミ関係者約20名)の参加で実施しました。

基調講演については、中国への留学経験者で、日中友好議員連盟幹事長の近藤昭一衆議院議員に、「日中関係と若者の役割」という話をいただきました。日中平和友好条約締結40周年に当たる今年、改めて両国の歴史・現状・今後について考えることは、大変意味がありました。近藤先生の貴重な体験を踏まえたお話と、日中の若者のこういった活動に期待するかというお話の一つ一つが、今後の取り組みの示唆に富み、大いに学習を深めることが出来ました。

パネルディスカッションは、日本僑報社・日中交流研究所代表の段 躍中氏にコーディネーターをお願いし、「日中交流についての若者の役割」「語学の壁をどう乗り越えるか」等について、意見発表や話し合いを行いました。パネラーは、宋 妍(第13回中国人の日本語作文コンクール最優秀賞者・学生)郭可純(第12回中国人の日本語作文コンクール一等賞受賞者・日本で就職)徐博晨・東京大学大学院留学生)市川真也(早稲田大学四年生・北京大学へ留学)宮川 咲(公益財団法人国際文化フォーラム職員・上海大学へ留学)鈴木由希(中華圏インタメライター・台湾国立大学へ留学)という6名の方々でした。



日中友好議員連盟近藤昭一先生の講演

宋さんは、「はじめ日本語の勉強をすることは恥ずかしかったけど、今は良かったと思っている。」「日本の沢山の方が、日本語の学習者に多くのチャンスを与えてくれていること、日中の交流に努力されている日本人の方々に感謝している。」また、「日本のバラエティ番組が好きで、そこから日本語を身につけた。」という発言がありました。郭さんは、神戸大学に留学したときにお世話になった日本人との絆について話してくれました。「小さなことの積み重ねで、きっと大きなこ



が出来ると信じている。」「私の力は小さいけれど、自分なりの努力で、

『日中友好の花がもっと綺麗に咲けるように、頑張っていきたい。』と、語学については、「日本人の日本語の先生から、『外国語の勉強は、日々の努力の積み重ねだ。』と教わりました。」と話しました。徐さんからは、「日中友好と言いながら、私自身もつらい経験を何度も味わった。しかし、今この場にも、こんなに沢山の方がいる。だから、私は日中関係について楽観的にとらえている。」と、また、「日本の方々と話をしたり、議論をしたりして、人と交流の場を広げていくとそこで言葉の勉強ができる。」と語ってくれました。市川さんからは、『『現場に行くこと』の大切さ、自分の目で、行ってみて、そこで見ることの大切さについて、中国への留学経験を通して考えた。』また、「日本人が中国語を覚えるのと中国人が日本語を覚えるのでは、中国人が日本語を覚える方が速い。」「日本の若者には、語学コンプレックスがある。」という話をしてくれました。宮川さんは、「中国留学中のエピソードで、文房具屋のおばさんが、『日本人なのによくしてくれるのよ。』と立ち話で言っていたことを通して、『日本人への印象が私を通して変わったのならうれしいな。』と思った。」という話をしてくれました。語学の壁については、「高校で文法等の基礎などやったのだが、留学した時習ったことがまったく頭に浮かばなかった。上海に4年いて口も耳も上達した。語学の上達はやはりそこに住むことだと思う。」と話してくれました。鈴木さんは、「世界共通のコンテンツは、共通の話題となる。」「言葉やイメージが壁になっている面があるので、そうしたところを払拭していけるよう活動している。」「もっと大きな動きにして、相手の国を知ろうという、そんなきっかけづくりの種をまいていきたい。」と、また、「日本人が中国語を学んでも、全然しゃべれるようにならない。それを乗り越える教育を考えていけたらと思う。」という発言がありました。

講評を前参議院議員・元内閣官房副長官 水岡俊一先生からいただきました。「去年今年と参加させていただいて、『これからの中日・日中関係をこういう若い人

たちが背負って頑張ってくれるんだな。』という期待感を持った。」とまず話されました。その後、パネラー一人一人の講評をいただきました。まとめとして、「今日の6人のパネラーに共通しているのは、『中国のことを勉強して日本のことが分かった。日本のことを勉強して中国のことが分かった。』ということだと思う。自分の国を、自分を好きにならないと、人との交流やコミュニケーションは取れないし、大事なことは伝えられない。これからも明るい中日・日中関係の為に6人には頑張って行ってほしい。私たちも頑張らなくてはならない。昨年も今年もとてもいい刺激をいただいた。一緒に頑張ろう。」とおっしゃっていただきました。

日本語作文コンクール最優秀賞受賞者 宋さんが協会顧問の興石先生を表敬訪問



興石先生より記念品の甲州印伝を

宋さんは、3月3日(土)に日本教育会館5階の「東アジア教育文化交流協会」事務所に興石先生を訪ねました。先生から訪中時の貴重なお話や今後の日中の若者交流についてなどの話を聞きました。記念品の印伝の巾着を興石先生からいただき感謝していました。

宋さんは、3月3日(土)に日本教育会館5階の「東アジア教育文化交流協会」事務所に興石先生を訪ねました。先生から訪中時の貴重なお話や今後の日中の若者交流についてなどの話を聞きました。記念品の印伝の巾着を興石先生からいただき感謝していました。

第13回日本語作文コンクール 財団選考の「教育賞」2名が決定!

2017年度第13回日本語作文コンクール(日本橋報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛)には、中国全土の省市区の189校から4031編の応募がありました。協会は積極的にこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞(教育賞)2編を選出しています。本年度の教育賞は、

林雪婷さんの「故きを温ねて新しきを知る」と、邱吉さんの「日本人に伝えたい中国文化のソフトパワー」でした。



邱 吉さん



林雪婷さん

～ホームステイ参加者も進学～ “フジ国際語学院卒業式”

3月7日(水)、フジ国際語学院の卒業式が行われ赤岡業務執行理事が出席しました。1000名を超える卒業生は、今年も国公立大学に進学しました。フジ国際語学院は1989年の創建で、中国等からの留学生のニーズに合わせた、日本語教育、基礎科目教育等の指

導に、取り組んでいます。教育交流ホームステイに参加した学生たちも



それぞれ志望校に進学しました。ホームステイでの体験を、今後の学生生活の中で生かしてくれることと思います。

第32回理事会・第17回評議員会で 来年度事業計画・予算が決まりました

3月14日(水)に、財団の第32回理事会と第17回評議員会が、日本教育会館7階704会議室で時間を前後して開かれました。理事・監事・顧問、役員・評議員の出席を得て、2018年度事業計画(山東省泰安市東平県への教育支援・第17次教育訪中団及び第



3回日中音楽教育交流会・ホームステイ事業・シンポジウム開催等)、18年度予算(総額9,307,000円)が慎重審議の後に、可決されました。

「中日平和友好条約締結40周年記念レセプション」に招待されました

4月1日(日)に、ホテルニューオオタニに於いて、中国宋慶齡基金会、日本宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会の共催により「中日平和友好条約締結40周年記念レセプション」が開かれました。宋慶齡基金会の王家瑞主席をはじめとする19名の訪日団メンバー、許中国大使、日中友好に関わる各団体代表者、日中友好国会議員など100名ほどの関係者が集まり有意義な時間を過ごしました。財団との取り組みにつ



いて、王主席が挨拶の中で取り上げてくれました。(黒田・赤岡が出席)

2018(平成30)年度の取り組み予定

- 8月 第7回教育交流ホームステイ
 - 9月 第14回日本語作文コンクール
 - 10月 第17次教育訪中団
 - 第3回日中音楽教育交流会
 - 2月 第4回日中教育文化交流シンポジウム
- ※ホームステイ・教育訪中団及び音楽教育交流会・シンポジウムにつきましては、広く呼び掛けて行いますので、協会へご連絡の上、ふるってご参加ください。